

青年委員会だより

令和8年1月1日（第285号）

青森県建築士会青森支部青年委員

謹賀新年

新年明けましておめでとうございます。

昨年6月の本部総会で県青年委員長の任期を終えたわけですが、昨年は、青森大会の運営や事業名称を改め開催することとなった『こども建築アカデミア』など、支部事務局や青年委員長として、イベントの多い1年になったと思います。

『こども建築アカデミア』については、いつものメンバーに加え、新規加入の会員やこれまで参加していなかった若手会員、そして会員候補といった多数の方々のご協力のもと、成功と言える形にはなったかと思います。当然のことながら、新たな試みだったため、改善しなければならない問題もありました。それらの問題については、今後より良いイベントとなるよう、協議して行きたいと考えております。

また、青年委員会では、毎月定例会議の開催や定期的な懇親を深めるための交流会を開催しております。近年、若手会員の多くは建設会社の方が多くなっており、敷居の高さを感じる方も多いかもしれませんが、いつものメンバーも設計事務所だけでなく、建設会社の方も参加していますし、最近では協力会員で青年の年齢である方も参加頂いております。お試しでも構いませんので、まずは参加して雰囲気を感じて頂ければと思います！

皆様の参加をお待ちしておりますので、今年もよろしくお願い致します。

青年委員長 松野 幸生

忘年会

青年委員会



12月12日 酒とおでん「八屋」にて青年委員会の忘年会が開催された。久々に顔を合わせるメンバーも含め12名が参加し、業種や新旧を越えた交流が深まる場となった。

土鍋のあたたかいおでん（カブがおすすめ！）を囲みながら、青年委員会らしい少し脱線した話題も交えつつ、印象に残っている仕事の話や、最近見に行った建築の話題などが交わされ普段はなかなか聞くことのない仕事観や建築への思いに触れる機会となったり、久しぶりに再会したメンバー同士の思い出話にも花が咲いた。2025年を締めくくるとともに、新年に向けた和やかなひとときとなった。

今年も、委員会活動とつながりづくりの場として、より良い時間を積み重ねていきたいと思います。新しい一年も、みなさまのご参加をお待ちしています！



新春特別企画

かたちのスケッチ

6つの形があります。

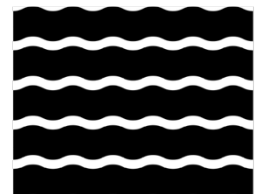
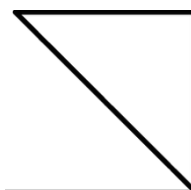
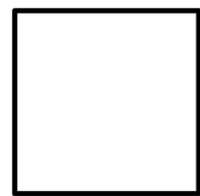
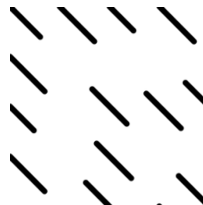
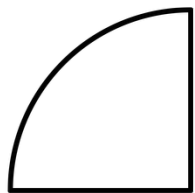
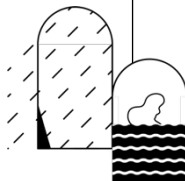
これは何になるでしょう。

模様？ 壁？ 屋根？ 椅子の脚かもしれないし、庭の木や、どこかの風景に見えてくるかもしれません。ひとつだけ使っても、組み合わせてもOK。

反転させたり、回転させたり、ねじったり、つなげて、離しても、線を足しても構いません。形が先か、意味が先か。

どんな建築になるでしょう。

お子さんと一緒でも一人のスケッチでも新春あそびにどうぞ！





磯崎新「群島としての建築」

2022年に逝去した建築家 磯崎新の没後、国内初となる大規模回顧展。

20世紀を代表する建築家である磯崎は、2019年にプリツカー賞を受賞し、建築にとどまらず、思想・批評・都市・芸術へと領域を横断しながら、常に新しい視点を提示してきた。本展では、彼が探求した空間概念「群島（アーキペラゴ）」を軸に、模型、図面、映像、スケッチなど多様な資料からその思考の軌跡をたどる。展示とあわせて、実際に磯崎自身が設計した水戸芸術館の建築空間を体感できるのも、この会場ならではの魅力である。

会 期：— 1 月 25 日（日）まで
場 所：水戸芸術館 現代美術ギャラリー



磯崎 新《水戸芸術館》1988年 シルクスクリーン・プリント

マリーナ・タバサム・アーキテクト展「People Place Poiesis」

TOTOギャラリー・間で、バングラデシュを拠点に活動する建築家マリーナ・タバサム率いるMTAの展覧会「People Place Poiesis」を開催。気候や文化に根ざした建築だけでなく、災害や貧困に向き合う彼女は、地域の土を焼成したレンガと幾何学を用いた祈りの空間「バイト・ウル・ロウフ・モスク」でアガ・カーン建築賞を受賞。洪水で住む場所を失った人のための可動式住宅「クディ・バリ」の活動でも注目されている。地域の人々が短期間で組立・解体でき、洪水発生時にはシェルターとして機能する。本展では「人々」「土地」そして創作や詩作を意味する「ポイエーシス」をテーマに、模型や映像、実物のクディ・バリも展示される。

会 期：— 2 月 15 日（日）まで 場 所：TOTOギャラリー・間



令和7年度 青森県立郷土館サテライト展「石!あつめてみました」

石は、長い地球の歴史の中で形づくられた存在である。大地を構成する地質や岩石には、自然界で起こったさまざまな出来事の痕跡が刻まれている。動植物の化石は、かつての自然環境や生物の進化を伝えている。一方、石は私たちの暮らしに深く関わってきた身近な存在であり、道具や建材、資源として利用され、美しい模様や形は鑑賞や信仰の対象にもなってきた。本展では、青森で見られる石や石材、石造物に焦点を当て、自然と人々の生活のつながりを多様な側面から紹介する。

会 期：— 1 月 18 日（日）まで
場 所：青森県立美術館
企画展示室A・B（地下2F）

Information 1 月

1 月 17 日（土）17:00 - 20:00

◆ナイトミュージアム

（青森県立美術館）※最終入場 19:30

23 日（金）18:30 -

◆建築士会青森支部 新年会

（まちなか温泉 2F 宴会場）

24 日（土） -

◆コレクション展 2025 - 4

【特集展示】コスモスの咲くとき

— 地域に学び、平和を刻む教育版画の「いま」

（青森県立美術館）※他特集展示あり

29 日（木）9:00 - 16:50

◆二級建築士定期講習

（日建学院 青森校）

申込締切：1 月 15 日（木）



2 月 7 日（土）17:30 -

◆地域実践活動発表会

（アウガ5F 研修室）

1 2 日（木）9:00 - 17:00

◆一級建築士定期講習

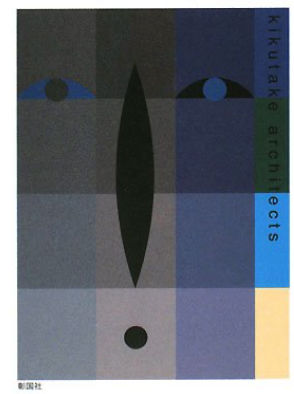
（日建学院 青森校）

申込締切：2 月 1 日（日）



BOOK PICKS

復刻版
代謝建築論
か・かた・かたち
菊竹清訓



復刻版 代謝建築論 か・かた・かたち
著者：菊竹清訓 / 発行年：2008年

菊竹清訓は、建築を生物の代謝のように更新可能な存在と捉える「メタボリズム」を提唱した。その思想の核となるのが『か・かた・かたち』である。建築を“完成形”ではなく、生き続けるものと見る視点は、今日の保存再生やストック活用にもつながる。建築が壊れても、思考は続く。新しい年に開きたい一冊。

編集 / 黒滝 和

建築士会 青森支部 新年会 1 月 23 日（金）18:30 ~ （まちなか温泉 2F 宴会場）

参加ご希望の方は 下記へご記入の上ご返信ください

FAX : 017-771-4320 / mail : info@aaba.gr.jp

氏名

TEL